いきいき行田人（ぎょうだじん）

仲間との協力で小説『のぼうの城』を点訳

武藤 房雄 さん（門井町・84歳）

日本式点字が考案されて100年余り。今では目の不自由な方は音声で情報を得たり、本などの内容を知ったりすることができるようになりましたが、点字は現在も多くの人に必要とされています。今月は、点字サークルに所属し、点訳などを行っている武藤房雄さんを紹介します。

定年退職後、民生委員・児童委員を15年間務めた武藤さんは、身体に障害を抱える方々と関わる中で、困っている人たちのために自分に何ができるかを日々考えていました。そんな武藤さんが点字と出会ったのは、平成11年の秋。カルチャースクールの点字コースを受講して、学べば学ぶほどその奥深さに魅せられたからだそうです。その後、平成13年に社会福祉協議会主催の点字講座を受講したことがきっかけで、翌年サークル「あけのほし」に入会。現在も同サークルの一員として、カレンダーや時刻表、レシピなどの点訳を行っている他、依頼があれば小・中学校へ出向いて点字の授業などを行っています。

80歳になり、〝自分自身に何かを〟と思っていた矢先、小説『のぼうの城』が映画化され、鑑賞と共に感動を深め、小説の点訳を決意。実際、作業に入って多くの登場人物や、時代背景を把握するため、出来事を年表に書き出して、人名と内容をより正確に理解しようと努めました。点字板を使い一文字一文字打つのは、気の遠くなるような作業で「途中、何度も諦めそうになりましたが、最初に視覚障害者との懇談会の席上、〝のぼうの城の点訳をやります〟と宣言してしまったので、何が何でもやり遂げなくてはと、自らを叱咤しながら取り組みました。後に引けなくなるように、あえてみんなの前で宣言したのですよ」と振り返るその顔には充実感がにじんでいます。そしてついに今年4月、4年の歳月を掛けて点字版が完成。成し得たのは「あけのほし」のメンバーの協力が有ってこそで「忙しいにもかかわらず快く引き受けてくれた仲間の存在が非常に大きい。本当にありがたいことです」と感謝の言葉を口にします。

大仕事を終え、武藤さんは今後について「これからも子供たちを含め、多くの人が点字に興味を持つように、講座などで魅力を伝えていきたいです」と穏やかな表情で語ってくれました。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

南河原　今村　文女
梅雨の月仄かに暈をまとひけり

矢場　高田みつ子
紫陽花やポストの中の濡れ手紙

須加　天沼　広吉
徘徊のごとく利根ゆく夏の夜

樋上　吉澤とし子
心友へ四ひら庭ごと贈りたし

門井町　宮田　淑尚
老いてなほ守る田畑青嵐

棚田町　財津ミチヱ
白髪は長寿の誇り茄子の花

富士見町　鈴木スイ子
山百合の供華に噎びし七七忌

佐間　須永　節子
老いの身の置きどころなき暑さかな

荒木　森田　静
氷水母と分け合ふ夕べかな

荒木　手島　一海
花菖蒲きりりと立ちし古墳壕

向町　小沼　重蔵
友逝きて枝折戸淋し水芭蕉

荒木　藤田　明枝
糠床に炒りぬか足すや梅雨の朝

持田　田子　敏枝
おぼろげに妣の伝授の梅漬ける

富士見町　森　節子
蛍追ふ子の声高し小針沼

城南　橋本千枝子
一人逝き二人逝きして梅雨深し

持田　丸山　麟一
濃あじさい真珠の雫こぼしけり

須加　蓮　陽子
夕立や慌てて落とす植木鉢

荒木　国島　和美
つばめの子巣立ちのための風を待つ

桜町　青木　良子
いとおしくひまわり育て子の墓前

荒木　国島　初江
作り手の自信あふれるさつき展

（三沢　一水　監修）

はじめまして

★★★ 平成27年 8月生まれ のおともだち ★★★

平成27年10月生まれのお子さんを募集します

○8月1日(月)～31日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、9月2日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

掛川　忠高（ただたか）ちゃん（持田）
平成27年8月6日生まれ
父・孝晃さん　母・友起さん
「毎日、秩父鉄道観察中」

小暮　紘大（こうた）ちゃん（前谷）
平成27年8月4日生まれ
父・孝光さん　母・優子さん
「いつもニコニコ♡
幸せをありがとう」

鷲巣　琴美（ことみ）ちゃん（佐間）
平成27年8月1日生まれ
父・祐也さん　母・恵美さん
「元気いっぱい大きくなあれ」

川上　苺子（まいこ）ちゃん（谷郷）
平成27年8月28日生まれ
父・祐司さん　母・実紀さん
「元気いっぱい
笑顔いっぱい」

半田　翔太郎（しょうたろう）ちゃん（渡柳）
平成27年8月17日生まれ
父・和久さん　母・梨恵子さん
「わんぱくでもいい。
逞しく育て！」

新井　綾人（あやと）ちゃん（駒形）
平成27年8月11日生まれ
父・大介さん　母・佩玲（ペイリン）さん
「元気にすくすく育ってね！」

ぎょうだの会社をクローズアップ!!

第一化成株式会社

「匠」の技が光る合成皮革で世界を舞台に活躍

第一化成株式会社は、昭和41年に創業した合成皮革専業メーカーで、日本初の湿式ウレタン合成皮革を開発。常に創意工夫に励み「高品質な合成皮革」を追及し、製造している会社です。行田工場は、昭和54年に富士見工業団地に新設され、同社の生産拠点として年間約260万メートルの製品を製造しています。同社の合成皮革は、湿式製法により天然皮革のような「柔らかくてしなやか」な感触が特徴のソフトレザーを製造しています。ファッション衣料用から始まった同社の合成皮革は、ボートやキャンピングカー、航空機、自動車の内装、ゴルフ手袋などさまざまな領域へと大きく広がり、特に家具用合成皮革は「柔らかで長持ちする」という従来にない特性により、国内外の大手メーカーに高く評価されています。ほとんどは欧米市場に車両、ボート、航空機などの内装用、コントラクト家具（ホテル、レストラン、劇場の家具）用として供給され、生産量の約9割を輸出しているそうです。

埼玉事業所長の中川豊彦さんは「従業員一人一人がどうやったら良い製品造りができるかを常に考えて仕事に取り組んでいます。従業員のチャレンジ精神と豊かな感受性がモノづくりの現場で生かされ、他にはまねのできない高品質な商品を生み出しています」と品質を支える技術力について話してくれました。柔軟性、通気性、難燃性、抗菌、防カビ、防汚性などの機能と品質の均一性や取り扱いやすさなど天然皮革の持ち得ない利点まで備えた高い技術は「タクミ（匠）テクノロジー」と呼ばれ、世界市場からも大きな信頼を得ています。

中川さんは「地球環境に優しく経済的な次世代自動車として注目されている海外の電気自動車の内装に採用が決まり、次世代の新素材としてさらに生産を強化し、今後も新分野での需要を伸ばしていきたいですね」と語ります。「匠」の技が光る行田産の高品質な合成皮革で、同社はこれからもさらに世界を舞台に活躍していくことでしょう。

会社プロフィール

代表取締役社長　中野 淳文
【事業内容】合成皮革の製造および販売
【住所】富士見町1―13―1

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。